

A. 屋内緑化コンクール 作品部門

屋内緑化推進協議会奨励賞

株式会社きらぼし銀行 株式会社日比谷花壇

(受付番号 A-35)

(フリガナ)	ミドリガササエルストレステイゲンオフィス
作品名称	緑が支えるストレス低減オフィス
所在地	神奈川県 都・道・府(県) 相模原 (市)区・町・村
応募施設	1 公共 2 学校 3 病院 4 老健 5 事務所 6 商業 7 集合住宅 (8) その他
完成時期	2024 年 2 月 19 日

○作品の概要 (必須)

本計画は、某銀行の「第2の本店」として位置付けられた相模原市内の施設であり、地域社会との共生をテーマとして掲げています。相模原市観光協会が入居し、同行と相模原市、同協会が連携して市の魅力を発信する場として2024年に新たに誕生しました。施設内には多目的ホールやラウンジを設けており「持続可能性」と「快適性」を両立させた職場環境の創造を目指しました。ZEB Ready 認証を取得した省エネルギー設計により、エネルギー消費量を大幅に抑制。環境負荷を低減しながら働く人々が心身ともに健康に過ごせる空間づくりを実現しています。

また、全てのフロアには植物で囲われたマグネットスペースを設け、自然の癒しを体感できる場を取り入れることで、従業員の健康維持やウェルビーイングをサポート。さらに、快適性や健康への配慮が評価され、CASBEE ウェルネスオフィスにおいて A ランクを取得するなど、質の高い職場環境づくりが推進されており、職場機能を超えて、地域全体に価値をもたらす施設となっています。



植物育成用 LED ライトは眩しさを与えることなく、他の照明器具とも意匠的に美しく調和している

○屋内緑化とストレス軽減へのアプローチ

本施設では、環境心理学およびバイオフィリックデザインの観点から、屋内緑化によるストレス軽減を図る空間設計を行いました。各フロア配置したマグネットスペースにより、交感神経の過剰な活性を抑え、副交感神経の働きを促進し、心理的な安定をもたらす環境を目指しています。

使用する植物は、衛生面とメンテナンス面を考慮してすべてハイドロカルチャーを採用。土埃やカビの発生を抑制し、心理的な安心感を提供するだけでなく、水位計を活用することによって水分ストレスを低減し、メンテナンスの効率化にも配慮しました。これにより、人だけでなく植物にとってもストレスの少ない、安定した生育環境が整えられています。

さらに、ラウンジやエントランスといった人の滞留が多い空間には、十分な緑量を確保した上で植物が配置される各エリアで必要な光量が確保できるよう、照度分布図を用いて事前に検証。自然光が届きにくい屋内空間でも植物の生長に必要な光合成が十分に行えるよう、植物育成用 LED ライトを導入し、光合成に最適な波長（主に赤系・紫系の可視光）を含むスペクトル設計の下、植物の光飽和点や日長要件に配慮し、植物が“生きて育つ”ための空間を技術的に支えています。視覚的な快適性にも配慮し、植物の生長と人の心理的癒しが共存する空間づくりを目指しました。植物育成用 LED ライトは自然な光の演出として眩しさや圧迫感を与えることなく、他の照明とも意匠的に調和させています。

また、相模原市緑区内で採掘された景石を意匠に取り入れることで、地域性を反映させつつこれらの取り組みにより、空間の美しさだけでなく、植物の生命力そのものをオフィスの活力として取り込む、持続可能で快適な緑化環境を実現しました。



照度分布図から植物育成用 LED ライトの規格と数量を選定



材料検査及び植栽の配置シミュレーション

○地域との共生とストレス軽減の社会的貢献

本施設は、業務空間としての機能にとどまらず、地域スペースの有効活用を図る銀行兼複合施設としての役割を担い、社会的価値の創出とコミュニティの活性化に貢献しています。特に、事業主と綿密な検討を重ねたマグネットスペースは、バイオフィリックデザインの考え方を基に、視覚的効果と心理的快適性の両面から検討して、ストレスホルモンであるコルチゾールの低減が期待できる空間構成を目指し、最適な緑量バランスと自然に近い空間づくりを実現しました。その上で、植物が健康に育ち続ける環境を維持するために、光・水・空気の3要素に配慮した緑化技術を積極的に導入。維持管理の工夫を凝らすことで、常に健やかな緑が空間に息づくデザインとしています。

近年の研究でも、緑環境と心理的安定や生産性向上の関連性が報告されており、本施設の計画もこれらの知見に基づいて構成されています。従来のオフィスの枠を超え、人・自然・地域が調和する空間づくりのモデルケースとして、今後のオフィス設計の1つの指標となることを願っています。